

2020 年 4 月 15 日

発行：日本福祉介護情報学会（<http://jissi.jp>）  
埼玉県新座市北野 1-2-26  
立教大学コミュニティ福祉学部  
飯村研究室内 [info@jissi.jp](mailto:info@jissi.jp)

## 【目次】

1.	第 21 回研究大会報告	1
2.	第 22 回研究大会案内	3
3.	学会誌「福祉情報研究」の進捗状況	3
4.	日本社会福祉系学会連合に関するお知らせ	4
5.	学会誌「福祉情報研究」投稿規定等改正	4
6.	事務局から	6

## 1. 第 21 回研究大会報告

日本福祉介護情報学会副代表理事  
林 恭 裕 (愛和福祉会)

### (1) 研究大会の概要

2019 年 12 月 9 日に開催された第 21 回研究大会には、会員をはじめ取材関係者も含めて 46 名の参加がありました。会場は、非常に歴史のある立教大学池袋キャンパス本館でした。研究大会は、午前中は自由研究発表で以下の 4 つの研究発表がありました。

- ① 画像とバイタルサインセンサーの統合見守りシステムで、特に夜勤スタッフの作業負担を軽減できるか  
発表者 細川 翔平 氏 (医療法人八女発心会 姫野病院)  
共同研究者 姫野 信吉 氏 (医療法人八女発心会 姫野病院)
- ② 「介護福祉士を目指す外国人のための学習支援サイト」の開発とサンプル版の公開  
発表者 高野 駿 氏 (首都大学東京)
- ③ 介護分野での情報化への一考察—地域共生社会における ICT 化のプラットフォーム形成のための環境整備について—  
発表者 田井 義人 氏 (摂南大学)

- ④ ソーシャルサポートとしての〈よりそう支援〉の位置づけに関する一考察  
発表者 大原ゆい氏 (大谷大学)

午後からは、研究大会テーマ「介護現場における ICT 化と効率化の課題」をめぐって下記のとおり基調講演とシンポジウムが行われました。

- ① 基調講演  
テーマ「介護業務の ICT 化 (介護ロボット) の現状とこれからの展望」  
講師 厚生労働省老健局高齢者支援課課長補佐・介護ロボット開発・普及推進室室長補佐  
井上 栄貴 氏

- ② シンポジウム  
テーマ「介護サービスの ICT 化の現状と課題」

シンポジスト

社会福祉法人善光会 理事・最高執行責任者 宮本 隆史 氏  
社会福祉法人一誠会常務理事／統括施設長・特別養護老人ホーム第二偕楽園ホーム施設長  
水野 敬生 氏  
株式会社マザアス (ミサワホームグループ) 代表取締役 吉田 肇 氏

コメンテーター 井上 栄貴 氏 生田 正幸 (本学会代表理事)  
コーディネーター 林 恭裕 (本学会副代表理事)

## (2) 基調講演・シンポジウムを通して

今回の研究大会のテーマは、介護現場が人材不足に陥っていることから介護の質の確保を前提とした業務の遂行が困難になっている。そこで、ICT を活用してそうした課題を解決できないか、と言う問題意識から設定したものです。

基調講演では、介護業務の ICT 化についての現状とこれからの国の施策展望について、講師の井上さんからお話しいただきました。

シンポジウムでは、宮本さんから「福祉・介護と ICT/IOT」と題して社会福祉法人善光会の取り組みを紹介してもらいました。介護ロボットによる見守りの効果など ICT 化による業務の効率化について具体的に紹介いただき、現状では最も先駆的な取り組みと感じました。水野さんからは、「介護サービス ICT 化の現状と課題—AI では代替できないソーシャルスキルの重要性—」と題しまして、ケアのソーシャルスキル (社会で人と人とが関わりながら生きていくために欠かせないスキル) の大切さと ICT の活用についての課題を述べていただきました。吉田さんからは、「介護現場における ICT 化の取り組み—3 年間の介護 ICT 化実証実験から見る現状と課題びっくり!」と題しまして、実験的に取り組まれている事例などを紹介いただきました。

基調講演、シンポジウムを通して介護サービスの ICT 化の最新情報を得ることができましたが、この中で「生産性」ということばが出てきました。福祉・介護の分野においては、なかなかないことばです。介護は、対人援助です。それは、利用者と介護者の共同として営まれる行為としてあるとおもわれますが、その場合の「生産性」とは何をさすのか。ICT を活用して介護現場の生産性の向上を図るといった場合、具体的にはどういうことなのか、ということについて、今後の本学会の研究課題の一つとして取り組まなければ、と思いました。

## 2. 第22回研究大会案内

日本福祉介護情報学会代表理事  
生田 正幸 (関西学院大学)

第22回研究大会は、京都にて開催を予定しております。

2019年度より研究大会を春・秋の二回開催とし、いずれも東京で開催するとお伝えしていましたが、オリンピック・パラリンピックの影響により、東京方面の大幅な混雑などが予想されるため、大谷大学(京都市北区)に会場を移し開催することとしました。

目下、大会企画を進めており、関係団体とも調整中のため、まずは、仮企画として案内申し上げます。なお、詳しい開催要項は、4月初め頃までに大会事務局から改めてお届けする予定です。

### 日本福祉介護情報学会 第22回 研究大会企画

※仮企画のためテーマ等が今後変更になる場合があります。悪しからずご了承下さい。※

#### ○会 場

大谷大学(京都市北区)

#### ○開催日

2020年6月28日(日)

#### ○大会テーマ

業務としての記録、情報としての記録 一介護記録のあり方と活用をめぐる一

#### ○趣 旨

介護分野の人材不足が厳しさを増しており、業務効率化に向けた取り組みが進められています。当学会でもAI(人工知能)やロボットの活用等について取り上げ、会員のみならず議論を進めてきたところです。今回は、介護サービスの実践現場において、業務上大きな負担になっていると言われる「記録」に焦点を当て、その実態と情報としての活用の可能性について議論したいと考えています。

## 3. 学会誌「福祉情報研究」の進捗状況

日本福祉介護情報学会理事  
飯村 史恵 (立教大学)

前回のニューズレターで投稿論文の締切延長をお伝えしましたが、締切日までに受理した論文につきましては、現在査読委員による査読を実施しております。次号「福祉情報研究」第16号は、次年度の研究大会に合わせて、概ね2020年6月発行をめざしております。発行まで、今暫くお待ちください。

なお今号には、改定された投稿規定も同封しておりますが、今後共、皆さまの投稿をお待ちしております。

#### 4. 日本社会福祉系学会連合に関するお知らせ

日本福祉介護情報学会理事・日本社会福祉系学会連合運営委員  
小川 晃子 (岩手県立大学)

9月22日に開催を予定していた公開研究会は台風接近の影響により2020年3月7日に延期となっておりましたが、新型コロナウイルスの感染拡大防止のために取りやめとなりました。中止とするか延期とするかについては未定で、詳細は現在の状況が収まってから次年度以降に再度検討するとのことです。

#### 5. 学会誌規定及び査読規定、執筆要項の改訂について

日本福祉介護情報学会副代表理事  
林 恭 裕 (愛和福祉会)

##### 1. 学会誌規定及び査読規定、執筆要項の改訂内容

2019年12月8日に開催された理事会で、業務の効率化を図るため「日本福祉介護情報学会誌「福祉情報研究」に関する諸規程及び執筆要項」の一部改訂案が提案され承認されました。改訂内容は、以下のとおりです。

##### (1) I 学会誌規定の5

編集委員会委員の指名に関する条項の変更と編集機能強化のための作業グループに関する規定を追加しました。

旧

「編集委員会は、企画担当理事及び紀要担当理事を中心に組織し、若干名を理事会の議を経て補足することができる。」

新

「編集委員会委員は、代表理事が理事会の議を経て指名する。なお編集等の実務のため若干名の作業グループを補足することができる。」

##### (2) I 学会誌規定の7

投稿論文の会員資格のうち、共同執筆論文における取り扱いを厳密化するための改訂を行いました。

旧

「(略) 会員が代表執筆者である場合は、共同執筆論文の投稿を認める。」

新

「(略) 会員が代表執筆者である場合に限り、共同執筆論文の投稿を認める。」

##### (3) II 査読規定2の①

第一次審査は、編集委員が行うことになっている規定を編集委員外の会員も行えるように改定しました。投稿論文の内容が多岐にわたっていることに対応した改訂です。

旧

「第一次審査として複数の編集委員が査読を行い第二次審査の可否を決定する。」

新

「第一次審査として複数の編集委員もしくは編集委員会が依頼する会員が査読を行い第二次審査の可否を決定する。」

(4) III 執筆要項の3

投稿締め切りに変更があった場合の通知方法が現在発行していない「学会通信」となっていたので現行の通知方法に改めました。

旧

「(略) なお、変更する場合は、学会通信などにより通知する。」

新

「(略) なお、変更する場合は、学会ホームページ、学会ニューズレターなどにより通知する。」

(5) III 執筆要項4

論文の送付先をこれまでの「事務局」から「編集委員会の指定する宛先」に改め、2020年度刊行予定の第17号から適用します。

旧

「(略) 日本福祉介護情報学会事務局宛に送付する。」

新

「(略) 編集委員会が指定する宛先に送付する」

(6) III 執筆要項における投稿原稿様式の指定

投稿原稿の様式を「原則として、Microsoft社のWordで作成したもの」としました。III執筆要項6と11において、「パソコン」と記載されていたものを「Microsoft社のWord」と改めました。

III 執筆要項6 (改定後)

「投稿原則は、原則として、Microsoft社のWordで作成したものとし、(略)」

III 執筆要項11 (改定後)

「最終原稿は、事務局より連絡する様式にもとづき、Microsoft社のWordで作成することとし、(略)」

(7) III 執筆要項10

掲載決定の通知を受けた際に提出する最終原稿について、印字した原稿とともに提出する電子媒体について、電子メール添付によるものを含めるため記載を電子ファイル形式に改め、送付先をIII執筆要項4の記載にあわせました。

旧

「(略) 所定の期日までに、最終原稿 (CD-R DVD-R USB 等に収録したもの、及び縦置き A4 判用紙に横書きで印字した原稿) を日本福祉介護情報学会事務局宛てに送付すること。」

新

「(略) 所定の期日までに、最終原稿 (所定の様式の電子ファイル及び縦置き A4 判用紙に横書きで印字した原稿) をそれぞれ編集委員会が指定する宛先に提出すること。」

(8) III 執筆要項12

最終原稿の形態の改訂にともなう変更を行いました。

旧

「投稿された原稿及び電子媒体は返却せず、発刊後2年間保存の上、廃棄する。」

新

「投稿された原稿及び電子ファイルは返却せず、発刊後2年間保存の上、廃棄する。」

## 2. 編集委員の追加について

12月8日の理事会において、新たに下記の会員が編集委員となりましたのでお知らせします。

### ■新編集委員

川森 茂樹 氏

大原 ゆい 氏

## 3. 投稿論文の送付先について

学会誌「福祉情報研究」第17号から下記となります。なお、第17号の論文募集をする際に改めて通知します。

### ■第17号の論文投稿先

〒603-8143 京都市北区小山上総町

大谷大学 社会学部 コミュニティデザイン学科 大原研究室

## 6. 事務局から

日本福祉介護情報学会理事・事務局  
飯村 史恵 (立教大学)

新型コロナウイルスの感染が世界各地で広まりをみせており、日本国内でも、各地の集会在中止あるいは延期されるなど、私たちの日常生活にも徐々に影響が出てきております。会員の皆さまにおかれましては、いかがお過ごしでしょうか。

本号に同封して、本年度会費の再請求書をお送りいたしますので、未だお納めいただいていない方は、お早めのご入金をお願いいたします。これに伴い会費の「領収書」が必要な方は、宛名及び送付先を明記の上、学会事務局までメールにてご連絡ください。また、行き違いに請求書が届いた場合は、ご面倒でも入金日をお知らせいただければ幸いです。

それでも徐々に季節は巡り、春を感じさせる日差しが目眩しい頃となりつつあります。どうぞくれぐれもご自愛ください。

### ■ 会員加入状況 (2020年2月29日現在)

正会員 101名 / 学生会員 10名 / 名誉会員 1名

### (編集後記)

今年度第3号のニューズレターをお届けいたします。今号よりニューズレターの編集を担当させていただくこととなりました。会員の皆さまの学会活動のお役に立てるよう精進いたします。どうぞよろしくお願いたします。(大谷大学 大原ゆい)